

第5学年国語科学習指導案

指導者 茅野 詩織

1. 単元名・目指す言語能力

自分たちの考えが伝わる提案書を書こう
～よりわかりやすい提案書へと推敲する力～

2. 教材名

「明日をつくるわたしたち」光村図書5年

3. 児童の実態

5年2組は男子18名、女子16名、合計34名（すみれ2名）の児童が在籍している。何事にも積極的な児童が多く、授業にも意欲的に取り組む姿がみられる。また、書くことに関しても昨年度の週末作文や1分間スピーチなどに取り組んできたことで、抵抗無く最後まで諦めずに書けるようになってきている。

意識調査によると、自由に文章を書くことに対しては好きと答える児童が多くみられる。しかし、読書感想文や観察記録を書くこと・自らの考えを文章で表すことなどに対しては、抵抗を感じている児童が多い。【書いた文章を読み返しますか】という質問に関しては、67.7%の児童が「はい」と答えている。さらに、【読み返した文章で漢字や言葉の間違えを見つけることができますか】という質問には、64.5%の児童が「はい」と答えている。しかし、添削をすると、既習の漢字を使えない、一語抜けてしまうなどの間違いが多くみられる。また、一文が長くなってしまい分かりづらくなっていることや、主語と述語が対応していないこと、話し言葉で書いてしまうことなどがある。その要因として、文章を読み返す際のポイントを理解していないということがあげられる。この経緯から、記述の指導に加え、推敲段階においても、教師が推敲のポイントを伝えていくなどの、きめ細やかな指導が必要であることがわかった。

4. 指導の内容と言語活動、教材のかかわり

(1) 言語活動設定の意図

本単元は、【書くこと】の言語活動例「イ 自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりする言語活動」を通して、指導事項「ウ 事実と感想、意見などと区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり、詳しく書いたりすること」に重点を置き指導を行うものである。しかし、文章を読み直し、よりよい文章にしていく習慣がついていないという実態を受け、指導事項「オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること」「イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること」に重点を置き指導を行う。

個人で作成した提案書をグループで読み合い、意見を交流することで、友だちの文書の良いところや、よりわかりやすい工夫などについて気づけるような活動を設定する。この活動を通して、よりわかりやすい提案書へと推敲する力をつけさせたい。よりわかりやすい提案書とは、読み手を納得させる内容（具体性）、文末表現や構成などが工夫されている文章である。

また、児童が単元を見通し、書くことを通して伝える力を育てるための手立てとして、「5つの言語意識」を指導者と児童が共有していくようにする。本単元では、5つの言語意識を以下のように持たせる。

5つの言語意識

- ① 相手意識・・・学級の友だちに
- ② 目的意識・・・自分の提案をよりわかりやすく伝えるために
- ③ 場面状況意識・・・交流会を通し
- ④ 方法意識・・・検討会で、推敲を重ねることで
- ⑤ 評価意識・・・自らの提案書を推敲し、よりわかりやすい提案書を書いているか

(2) 教材の特徴

指導にあたっては、「自分たちの考えが伝わる提案書を書こう」を「単元を貫く言語活動」と位置づけることで、児童が自らの力で「よりわかりやすい提案書へと推敲する力」を児童に身につけさせていく。

提案書の構成を学ぶ場面では、教科書の文章を分析することで現状や問題点、解決策、文末表現など、提案する文章に欠かせない内容をしっかりと押さえていく。今までふれたことのなかった、提案書というものを理解し、完成のイメージを認識させたい。

はじめに、学校生活をよりよくすることについてクラス全体で話し合いをする。それらを現状・問題点などの項目ごとに分け、構成メモに記入することをクラス全体で行う。このことで、提案書に書くべき要素を把握できるようにする。(ワークシート①②)

次に、児童が個々にテーマを決め、構成メモを記入していく。周囲の意見に頼らず、自分の考えをまとめさせていく。(ワークシート③)

構成メモの内容をどのように、提案書として起こしていくかを学び、完成のイメージを持たせる。そして、小見出しを付けながら提案書を作成する。(ワークシート④⑤⑥)

また、今回は一度作成した提案書を、推敲ポイントを意識して、グループで読み合う。それを踏まえ、よりわかりやすい提案書へと推敲していく。読み合う際に、観点を明確にするため、推敲ポイントをクラス全体で確認し、教師の例文を全体で推敲する。(ワークシート⑦⑧)

推敲ポイントには、漢字や誤字脱字、主語の対応など基本的な文章の間違いに気づかせるものと、文章をより分かりやすくするもの(具体例など)を入れる。既習事項「次への一歩―活動報告書」では、実行(報告)と考察を分けて書くことを学んだ。また「新聞を読もう」では小見出しや題名の付け方などを学び、読み手にわかりやすく伝える工夫について学習した。推敲する際には、それらの既習事項を推敲ポイントに加えることで、より分かりやすい提案書を作成していきたい。

一人では気づくことのできない改善点を見つけ、友だちと比較することで表現や構成の違いに気づき、それを自分の文章に取り入れるようを指導する。読み手を意識し、文章のどこに工夫を加えていくべきかに気づき、よりわかりやすい文章とはどのようなものなのかを考えることで、推敲する力を身につけさせたい。

5. 日常の取組

・スピーチ

朝の会では、その日の日直がスピーチに取り組んでいる。新聞記事や日常であった出来事など、「みんなに知ってほしいこと」について、1分間程度にまとめ発表している。

・作文

書く機会を増やし、書くことになれるため、行事後や週末の出来事などの作文を書いている。その作文を、推敲ポイント表を元に推敲している。

・国語プリント

主語述語・修飾語・送り仮名など、国語の基礎力を付けるためのプリントを行っている。

6. 指導の目標

○話題を決めて、互いの立場や意図をはっきりつけさせながら、計画的に話し合うことができる。【指導事項 Aオ】

◎自分たちの身の回りにある問題について、推敲を重ねることでよりわかりやすい提案書を書くことができる。【指導事項 Bオ】

7. 指導計画と評価計画（B領域「書くこと」）

（1）評価規準

国語への 関心・意欲・態 度	話す・聞く能力	書く能力	言語についての 知識・理解・技 能
① 問題について調べ、解決のための提案書を書こうとしている。（関） ② 自分の提案書をよりわかりやすくしようとしている。（関）	① 自他の提案書について、考え方や感じ方の違いを見つけ、意見を伝え合うことができる。（話・聞オ）	① 提案書の表現や構成を理解して、自分の考え書くことができる。（書イ） ② 分かりやすい文章になるように、構成や表現を見直し、工夫している。（書オ）	① 言葉から受ける感じや、言葉の使い方について関心を持ち、説得力が増すように表現を工夫している。（言語イカ）

(2) 学習過程の概要

単元を貫く言語活動	指導過程	次	重点	主たる学習活動	評価規準・評価方法 □観点()方法
<div data-bbox="140 389 177 965" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 自分たちの考えが伝わる提案書を書こう </div>	課題設定・書きぶりを学ぶ ・見通す ・集める ・選ぶ	第一次	課題設定	1・学校生活をよりよくする提案書を書くこと知る。 ・学校生活における問題点をあげ、提案書を書き、読み合うことの価値に気づく。 ・学習課題をつかむ。	・学校生活の問題について考え、解決のための提案書を書くという単元の学習を理解し、学習の見通しをもっている。関①(ワークシート)
				<div data-bbox="480 613 1003 734" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 自分の考えが伝わる、わかりやすい提案書をかこう！ </div> ・学習の流れをつかむ。	
		取材	2・例題を取り上げ、全体で構成メモを作成する。 3・自分を取りあげる問題を決め、構成メモを記入する。	・提案書の表現や構成を理解して、提案書を作成することができる。書①(ワークシート)	
組み立てる下書きする	第二次	記述	4・教科書の提案書をみながら、提案書の書き方(項目や文体)を確かめる。 5・小見出しをつけながら、構成メモをもとにして、提案書を作成していく。		

	見直す・清書する	学ぶ・適用する	推敲	<p>6 ・ 検討会の仕方について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既習事項を生かしながら，推敲ポイントを確認する。 ・ 教師が作成した提案書を全体で推敲する。 <p>7 ・ 3人グループになり，1人ずつ提案書を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートを使い，推敲ポイントをチェックしていく。 <p>8 ・ 友だちとの検討会を通して，学んだ内容を全体で確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師が作成した提案書をより伝わる文章へとさらに推敲していく。 <p>9 (本時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時に扱った例文を使って，推敲ポイントを確認する。 ・ 自分の提案書により分かりやすくできる文章を探し，線をひきメモ書きをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説得力が増す文章にするための推敲ポイントを考えることができる。言① (発言) <ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちの文章を読み，構成や表現の違いを見つけ，自分の文章を見直すことができる。書② (ワークシート) ・ お互いに意見を発表しあい，計画的に話し合うことができる。話① (発言) ・ 検討会を参考にしながら，説得力のある提案書にするためにふさわしい語句の使い方を理解できている。言① (発言・ワークシート) ・ 構成や表現を見直し，分かりやすい文章にしようと推敲している。書② (ワークシート) ・ 自分の提案書をよりよくしようとしている。関② (ワークシート・発言) 	
					<p>10・11・12</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 推敲メモをみながら自分の提案書をよりよくするために必要な情報を集めたり，文を書き直したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提案書の表現や構成を理解して，提案書をさらによい文章へと工夫することができる。書① (ワークシート)
	伝える・振り返る	表現課題の確認	第三次	交流	<p>13・交流会をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちが書いた提案書を読み，わかりやすく書いてある工夫を見つけられることができる。関① (ノート) ・ 説得力が増すように表現が工夫されているところを見つけられることができる。言① (発言)

				14・感想を書き，学習を振り返る	
--	--	--	--	------------------	--

(3) 指導と評価の計画

次	時間	主な学習活動	指導上の留意点	Aの姿	Cの児童への手立て
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> ◆学習課題をつかみ，学習の見通しをもつ。 ・5つの言語活動を確認して学習課題をつかむ。 ・自分が作成するテーマを決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活における問題点や，委員会活動などに目を向けさせ，テーマに対して興味関心を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の概要を知り，学校をよりよくする提案書を書きたいという思いをふくらませて，自分の題材を，理由をはっきりさせて選んでいる。関①（発言・ワークシート） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活における問題点について，1日生活を一緒に振り返り，事例をあげる。
	2 3	<ul style="list-style-type: none"> ◆自分が作成したいテーマについて，問題点や提案内容などを構成メモに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項である，区別と考えを分けるということを思い出させ，客観的な視点も主観も書くように伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事実や考えをより具体的に構成メモにまとめることができる。書①（ワークシート） 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点や提案内容が思いつかない場合は，児童会や学級の取組内容等の具体的な例をあげる。
第二次	4 5	<ul style="list-style-type: none"> ◆提案書の書き方を学ぶ。 ◆小見出しをつけながら，構成メモをもとにして，提案書を作成していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提案書の内容・構成・記述について学び，構成メモからどのように書くのかを，教師の文章を例にし，全体で確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提案書の表現や構成を理解し，構成メモに記入した内容をより具体的にかいたり，データ等をいれたりしながら，より具体的に提案書を作成することができる。書①（ワークシート） 	<ul style="list-style-type: none"> ・書くことが苦手な児童には，教師が用意した文章に書くポイントを添えたヒントカードを用意して，構成メモを書きかけながら作成するよう支援する。
	6	<ul style="list-style-type: none"> ◆検討会の仕方について学ぶ ・教科書を読み，協議のしかたを確 	<ul style="list-style-type: none"> ・推敲のポイントは，既習事項を生かしながら，よりわかりやすく説 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を思い出しながら，提案書の説得力が増す文章にするた 	<ul style="list-style-type: none"> ・話すことが苦手な児童には，グループで助言をしてもらえるように，グ

	<p>認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 推敲のポイントを確認する。 	<p>得力を持たせる文について児童の言葉でまとめていく。</p>	<p>めにはどのような文章にするべきか考えることができている。言①（発言）</p>	<p>ループ分けを配慮する。</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> ◆まとめた提案書を持ち寄り、意見を出し合い検討会をする。 ・ 3人グループになり、1人ずつ提案書を発表する。 ・ ワークシートを使い、推敲ポイントをチェックしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ チェック項目が○か×かだけでなく、どのような部分がよいのか、どのように直したらよいかを具体的に話すよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちの提案書から良いところを見つけ、<u>よさを具体的に言葉で伝える</u>ことができているたり、さらに分かりやすい文章にするにはどのように書いたらいいか伝えることができている。書②（ワークシート） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 推敲ポイントを見つけない児童には、簡単な推敲ポイントからチェックしていくよう声をかけていく。
8	<ul style="list-style-type: none"> ◆検討会を通して学んだ内容を全体で確認し、教師の提案書を推敲する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次時の自分自身の推敲へとつなげるということを意識させる。 ・ より伝わりやすい表現の効果を確認しながら確認を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説得力のある提案書にするためにふさわしい語句の使い方を理解でき、<u>自分の言葉で説明することができている</u>。言①（発言・ワークシート） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ペアや班で話し合う時間を取り、友だちにアドバイスをもらう。
9 本時	<ul style="list-style-type: none"> ◆友だちとの検討会を通して、自分の提案書を推敲する。 ・ より分かりやすい提案書にするための推敲ポイントを確認する。 ・ 教員が作成した例文を使って、推敲ポイントを探す。 ・ 自分の提案書を読み返し、分かりやすくできる文 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の意見全てを取り入れるのではなく、より分かりやすくするという観点を振り返り、読み直すことを意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検討会を参考にしながら、説得力のある提案書にするために<u>ふさわしい語句を自分自身でみつけ</u>、構成や表現を見直すことができている。書①（ワークシート） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ どこを直したらよいか悩んだ場合は、検討会の友だちからのアドバイスを参考に記入していく。 ・ 推敲ができている児童を全体でとりあげ、同じように直せるところがないか参考にする。

		章を見つけ、メモ書きをする。			
	10 11 12	◆推敲メモをみなから自分の提案書をよりよくするために必要な情報を集めたり、文を書き直したりする。	・小見出しや構成・レイアウトにも着目させながら、文章を書き直していくよう指導する。	・検討会で出たことを <u>自分なりの言葉で修正し、情報を新たに調べたり、構成を変えたりする</u> など、自分の提案書をよりよくしようとしている。	・自分で書き直すことが難しい児童には、検討会の内容を振り返り、友だちや教師のアドバイスをもとに書いていく。
第三次	13	◆交流会をする。	・わかりやすい提案文という観点をもちながらお互いの文章を読み合うよう伝える。	・説得力が増すように表現が工夫されているところを <u>積極的に</u> 見つけることができる。	
	14	◆学習を振り返る。	・今後の書くことの学習に生かせることを考えさせる。		

8. 本時の指導

(1) 日時 平成28年10月12日(水) 5校時

(2) 対象 5学年2組 32名

(3) 目標

◎自分たちの身の回りにある問題について、推敲を重ねることでよりわかりやすい提案書を書くことができる。【指導事項 Bオ】

(4) 授業の展開

学習過程	児童の学習活動と内容	指導・支援上の留意点	評価規準 □観点 () 方法
つかむ 10分	1, 学習課題, 学習過程を確認する	・学習過程を確認し, 本時の見通しをもたせる。	
	検討会を振り返り, 推敲することでよりわかりやすい提案書にしよう!		
	2, 推敲のポイントを確認する	・前時でまとめたプリントを拡大して提示する。	・説得力のある提案書にするためにふさわしい語句の使い方を理解することができる

			(言ア)(発言)
考える・深める 30分	3, 自分の提案書を推敲していく 4, 推敲できた児童を全体で確認する。 5, 全体での確認を参考にして、さらに推敲する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートにチェックを入れながら, 推敲するように伝える。 ・見つからない児童には, 検討会での友だちのアドバイスを参考にしよう伝える。 ・拡大投影機を利用し, 発表させる。 ・机間指導を行い, 手が止まっている児童に声をかける。 	<p>構成や表現を見直し, 分かりやすい文章にしようとして推敲している。(書オ)(観察・ワークシート)</p> <p>・友達の見意を取り入れ, 自分の提案書をよりよくしようとしている。関②(発言・ワークシート)</p>
5分 まとめる	6, 次時の活動の確認を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・推敲した成果を確認する。 ・清書を行う際に, さらに手を加えてもよいことを伝え, 完成までの見通しを持たせる。 	

(5) 本時の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
自分の提案書をよりわかりやすくしようとしている。(関)	分かりやすい文章になるように, 構成や表現を見直し, 工夫している。(書オ)	言葉から受ける感じや, 言葉の使い方について関心を持ち, 説得力が増すように表現を工夫している。(言語イカ)

(6) 成果と課題

【成果】

ワークシートや教室掲示に観点や手順を明確に記すことで, 児童がスムーズに活動できていた。また, 交流する時間では友だち同士で一度書いた提案書を読み合い, 修正できる点やさらに伝わりやすい文章になる部分を伝えあう活動を通して, 自分自身が書いた文章をより客観的に読むことができるようになってきた。今まで, 読み返す習慣がついていなかった児童からは, 「直したらよくなった」「この間書いた作文も推敲してみたい」という発言が聞かれた。このことから, 読み返すことで間違いに気づいたり, さらに文章がよくなるためにはどうしたらよいかと考えたりすることが楽しいと感じることができている様子であった。事後アンケートでは, 『書いた文章を読み返しますか?』という質問に対して,

読み返すが 87.1%の児童が読みか返すと回答しており、事前アンケートより 19%も向上している。また、『読み返した文章で漢字や言葉の間違えを見つけることができますか』という質問では、77.4%の児童が見つかることができると回答しており、12.9%向上していた。このことから、推敲に対する意識があがり、児童がポイントを意識しながら推敲できているということがいえる。表現方法や文末表現に関しては、「読む人になるほどと思うような」や「相手が納得するような表現で」という、言葉かけをすることが、児童にとって効果的であった。途中で児童が書いたものを大型テレビに写すことで、意欲の向上やイメージの共有をすることができた。

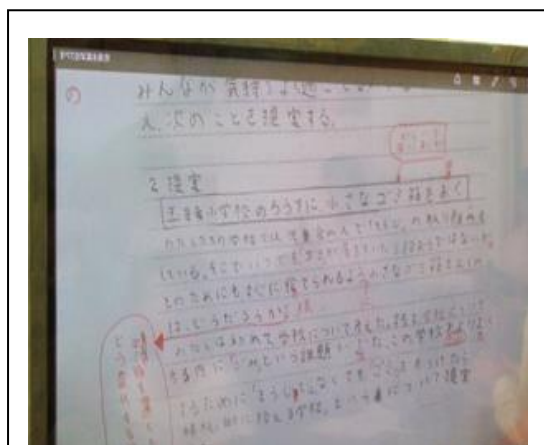
【課題】

今まで、推敲をしてこなかった児童が多くいたため、はじめは戸惑いを感じている様子であった。また、教師側も校正の部分と文を改善する部分との違いや線引き等に関して悩むところがあった。校正の部分は充分であるが、文の改善・構造化に苦勞する児童が多く感じた。どこを変えればよいのか気づくことができないというような、手が止まった児童への対応や解決策の提示を具体的にすることができなかつた。

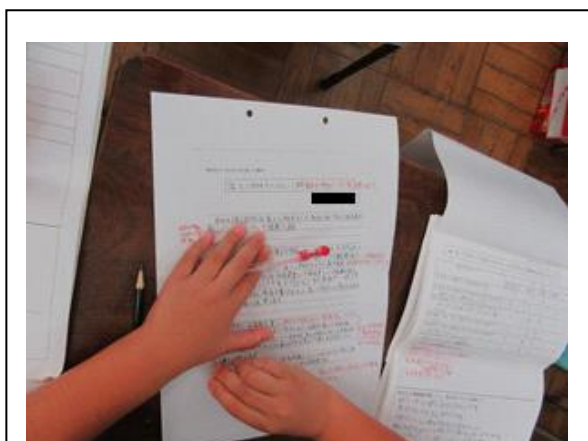
本時では、児童が考え、反応する間を確保し、自らの意見を発表・説明する場面をつくることができなかった。次時において、児童同士の交流や発表の場面を多くとった際は、手が止まっていた児童も少し進む様子も見られた。児童は、教師や長けた者に直してもらいものもとらえている部分があるため、繰り返し推敲ポイントを伝え日常的に取り組んでいきたい。

【指導助言】

- ・書く力は（本時のみでなく）様々な場面で育てていくべきである。今後も、語彙の質と量を高める王道といえる教材研究を行ってほしい
- ・書くことの指導に限らず教師が常に指導方法を工夫し、取り入れていくことが大切である。



児童が推敲した文章を大型テレビを使って発表している様子。



推敲ポイントのワークシートと友達からのアドバイスを見ながら、推敲している様子。

